

イス・ウクライナ・ジャパン」。広場には、ウクライナの国旗と、「PEACE (平和)」の形にLED キャンドルが置かれ、花や明かりを持った人たちが儀

PEA

渋谷 ウク

てほしい」と力を込めた。同グループは十日午後二時半～五時、東京・新宿駅南口でウクライナ支援のデモも予定している。

(加藤益丈)

東京福祉大ウクライナ人英語講師

ロシア軍の侵攻によってチェコに避難しているウクライナ人英語講師のテチアナさん(四三)が、所属する東京福祉大学(本部・群馬県伊勢崎市)の学生に向けたオンライン授業の準備を進めている。母国にいつ戻れるかわからない避難先で、暮らしを支える講師としての仕事に「私にとって大切な支援になっている」という。

(佐藤航)

授業届ける 避難先でも

住んでいたウクライナの首都キエフ(キエフ)を逃れ、チェコにたどり着いて約一カ月。オンライン取材に応じたテチアナさんは現在、長男(さう三人の家族とともに、知人が紹介してくれたチェコ・プラハ近郊の家に身を寄せている。

故郷には連絡を取れなくなった知人もいる。「ほっとできる時間はない」。それでも、今月下旬から始まるオンライン授業の準備を淡々と進めている。「言葉も通じない避難先で仕事を見つけるのは

チェコからオンライン

大変。大学の仕事のおかげで、私たちは生活できている」

母国で日本語や英語を学んでいたテチアナさんは二〇一九年に来日し、東京福祉大で英語や留学生向けに日本語などを教えるようになった。

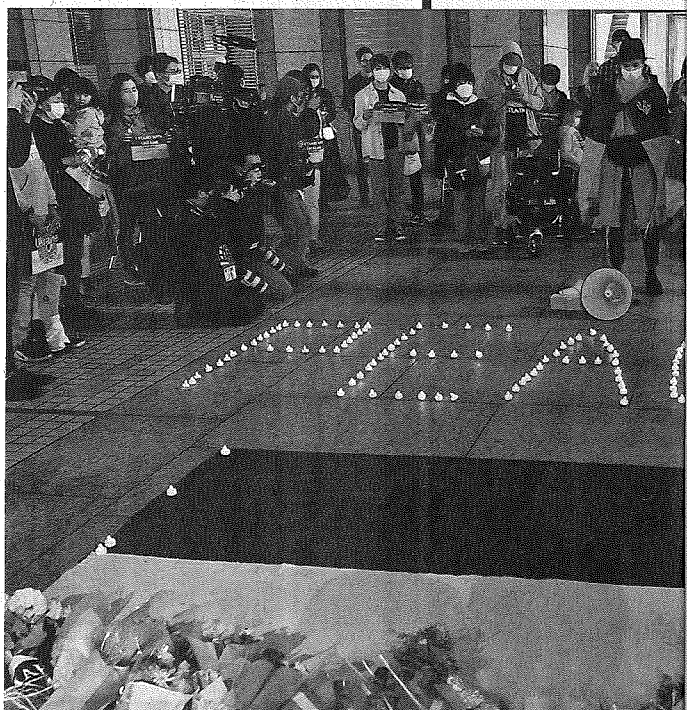
二〇年秋にいったん帰国した後、新型コロナウイルス禍で再来日が難しくなり、キエフでオンライン授業を続けてきた。

いざ日本に戻るつもりだったところに、ウクライナへの侵攻が始まった。最初の十日間は頑丈な

建物の地下で過ごし、電車とバス、歩きで五日間かけて西隣のポーランドに避難。その後、知人のつてを頼ってチェコに移った。

テチアナさんは授業で多くを語るつもりはないというが、日本の若者に理解してほしいことがある。「ロシア側の報道は『ウクライナに平和をもたらすため』と言うが、そんなことは全くない」。

フェイクニュースが飛び交う中、正しい情報で正しい判断をする大切さを知ってほしいと願う。



〇一五年四月から九大大学院法学研究院に出向し、同社の寄付講座の客員教授として勤務。二一年八月までに架空や私用の交通費約五百六十件(計約百五十万円)を同社に請求し、経費として受け取っていた。九大の研究費でもこうした不正受給をしていたという。同社は進藤卓也編集局長らもけん責や戒告の処分とした。「社員が会社の経費にとどまらず、大学院研究費を不正受給したことを深くおわびする」とのコメントを出した。

総務省接待 検審申し立て

12人不起訴 市民団体「究明を」

菅義偉前首相の長男が勤めていた放送事業会社「東北新社」による総務省幹部らへの接待問題で、収賄容疑などで告発された元総務審議官ら十二人の不起訴処分を不服として、市民団体が八日、検察審査会に審査を申し立てた。市民団体によると受理された。

申し立てた「検察庁法改正に反対する会」は東京都内で記者会見し、岩田薫共